

# 国民平和進行2012

the Union-Press of JMIU-FUKUOKA

適  
刊

## 地本 だより

2012年  
8月号

発行人：雪竹一徳：全日本金属情報機器労働組合(JMIU)福岡  
地方本部 〒806-0051 北九州市八幡西区東鳴水3-5-1  
-608 <http://jmju-kyusyu.com/sub90.htm>

12年 8月 1日 (NO. 0015)

Hi, everyone!! Let's stand together!!

## 核兵器廃絶！ 心を一つに、地本リレー



15日福岡市内豪雨で渦巻く多々良川

広島と長崎への原爆投下から67年、戦後生まれの人々の割合は75%を超え、被爆体験の風化が進んでいます。

日本は世界でただ一つの被爆国、原爆の

被害を体験した国です。世界に被爆の実相を発信し核兵器廃絶をアピールしていかなくてはなりません。

核兵器のない世界へ、いま歴史の扉が開かれようとしています。「日々生産活動にたずさわる金属労働者の誇りに燃えて」「殺戮と破壊のみをもたらす核兵器」廃絶の運動に取り組みます。

と、 いうわけで、7/14(土)から21(土)まで今年も福岡市～北九州市(&網の目行進in田川から直方)リレーに取り組みました。

今年のリレー行進前半は



九州北部豪雨とかさなり、大雨の中での行進となりました。県内、そして九州各地に甚大な被害がもたらされました。心からお見舞い申し上げます。

行進参加の博多地域支部・榊山さん(写真・左中)の感想は、

「多々良川を渡りましたが、さすがに渦を巻いていました。

歩いた距離は、約9キロメートル、歩数は1万2千歩。歩き始めた頃も50人程と雨のせいか例年より少なかったが、解散時は20人程の状況でした。

豪雨・洪水・突風・雷などに関する警報が出されている中で、登山なら当然中止する処を、平和行進は強行するなど異常で、何かしら自己満足的な気がします。」

と、 かなり大変だった様子です。

「大変お疲れ様でした！」

7月16日9時古賀市役所鉄鋼支部阪田さん(写真・上) 7月17日9時岡垣公民館八幡戸畑地域支部二宮さん(写真・下)



2012.07.16



2012.07.17

7月 18 日黒崎駅前八幡戸畑地域支部青年ユニオン渡辺さん。

(写真  
元衆議員  
小沢さん  
達と・右)



7月19日10時15分戸畑グッデイ安川合同支部



久保さん。

19日16  
時小倉境川T  
OTO支部小  
橋さんです。

平和行進リ  
レー旗は今年  
新たに新調さ  
れた物です。



↑ 癌に勝利しつつある雪竹委員長、順番が前後して  
すいません、7/16

癌との闘いにほぼ勝利した雪竹委員長は、連日行進団  
を追いかけカメラマンをしました。

右→

21日、行進団は、小  
倉北区から門司区へ。  
九州最終日！



写真は、  
二子石副委員長、兼築  
書記長、道下書記次長、  
門司小倉の今泉さん等、  
最後を飾るにふさわし  
い?みなさん。



16:00

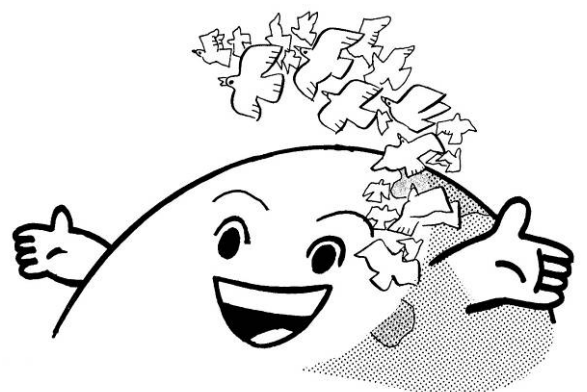
行進団は無事門司港棧  
橋に到着、  
下関に渡って 17:30  
から山口県との引継ぎ  
集会が行なわれました。



To peace! Cheers!

写真がなく残念ですが県内平和行進では他に、  
宮崎～小倉(日豊線)コースで 19 日、行橋～小倉を  
自動車鉄鋼支部の万田さん、  
網の目行進、田川市役所～直方市役所コースを 15  
日、田川地域支部の橋田さん、伊原さんが歩きました。

JMIU福岡地本組合員と協力者による、地本リレ  
ー参加者は、延 17 名でした。  
皆さん、お疲れ様でした。また来年も頑張りましょ  
う。



# オスプレイ

## 関門海峡を通過

国民平和行進が九州から関門海峡を越え山口県へ無事引き継がれた翌日 7月23日(日)夕方、関門海峡に現れたのは、あのアメリカの欠陥軍用機「オスプレイ」を12機載せた自動車輸送船グリーンリッジでした。

### 門司原水協主催 緊急抗議集会に 250 名が集う 地本から二子石・兼築が参加。

在日米軍が沖縄配備を企てる欠陥機オスプレイは、報道などで分かっているだけでも、試験段階の91年以降40名近くを死亡させていて、別名『未亡人製造機』の名を持ちます。(一応輸送機)

沖縄をはじめ全国で反対運動が大きくなっていく中で、の持ち込みとなりました。

23日 19:00 から門司区大里本町の臨海公園で開催された集会は、はじめ100名ほどの集会でしたが、散歩途中の人などもシュプレヒコールに加わるなどして、250名を越える集会になりました。

決意表明を兼ねた挨拶で兼築書記長は、「政権与党も含めてみんなが配備反対を表明している中で、持込が強行されるアメリカ言いなり政治は異常だ、変えよう…微力ながら全力をあげる」と、発言しました。他に全港湾・新婦人・共産党などが決意表明しました。

国会では、安全性アピールのため「野田首相が試乗せよ」などといった馬鹿げたパフォーマンスを求める声が上がっているようですが、「かいわれ大根」ではあるまいし…。

命をかけるなら、野田首相は身体を張って、職を賭して、国民の安全と国の主権を守ってアメリカに配備断念を求めるべきです。



## <オスプレイの主な事故>

1991年6月11日(試作段階)

試作機の初飛行の離陸時、飛行制御不能となり、離陸に失敗して地上に転覆、搭乗員2人が軽傷を負った。

1992年7月20日(試作段階)

試作機が着陸時に右エンジン部から出火、ドライブシャフトが機能せず、右ローター動力喪失で飛行姿勢を維持できず墜落、機体が全損した。7人死亡。

2000年4月8日(試作段階)

パイロットが飛行制限を超えた降下率で操縦した結果、VRS(回転する翼の端が空気の渦の中に入り揚力を失なった状態)に突入し墜落、19人が死亡。

2000年12月11日(試作段階)

着陸前の計器飛行進入時、高度1600フィート(約488メートル)で操縦不能になり墜落、4人が死亡。

2006年3月27日

米ノースカロライナ州のニュー・リバー基地で整備中に突然離陸し、地上に落下した。

2007年11月6日

ニュー・リバー基地周辺で飛行中にエンジン部から出火し、着陸帯に着陸、乗員は無事だったがエンジンとナセル部の大部分が損傷を受けた。

2010年4月8日

空軍のCV22がアフガニスタン南部で通常任務中に視界不良状態の中、時速約139キロの速度で地上に激突、乗員20人中4人が死亡した。ほかの16人も負傷。

2012年4月11日

海兵隊のMV22がモロッコでモロッコ軍との合同演習中に墜落し、海兵隊員2人が死亡、2人が重傷を負った。

2012年6月13日

空軍のCV22が米フロリダ州ナバラ北部の演習で訓練中に墜落した。

(2012年6月16日 琉球新報)

# 全国大会報告 です

定期全国大会に地本より代議員として道下哲也書記次長【写真の二枚目→(笑)】が参加しました、以下その報告です。



2012年7月14日から15日にかけて伊東市においてJMIU第48回定期全国大会が開催されました。

開会冒頭、生熊委員長はあいさつで ①労働裁判冬の時代、原発反対の国民世論の高まり、民意に反する政治、などの諸問題の中で JMIU の発展方向をどう見出すかが重要。

②2013年度方針は、「労働者の切実な要求に即して産別組合のリーダーとして先頭を切って闘う」③組織拡大は共感を持たれる要求を掲げ、まず組合に加入させてともに闘う。闘いの中では自発的には組合員は増えない。と語りました。

来賓挨拶は共産党山下芳生議員、全労連、大黒作治議長、顧問弁護団長、鍛冶利秀先生、金属労研、西村直樹氏の四氏が行いました。

その後各議案の討議質疑応答が行われ承認されましたが、予算案については、本部納入会費値上げ（670円から720円）については、地本として反対はしないが人数を三名減らして調整するという意思表示をしています。この件に関してはもっと議論する必要があると思いました。



初日終了後、

懇親会が行われ、各地で闘っている仲間たちと交流しました。

大会二日目の討論に参加し、現在地本で闘っている、イワキ工業、安川囑託退職金差別、そして西南電機雇い止めの闘いについて報告しました。

今回機関紙コンテストに5点出品していましたが、鉄鋼関連支部とイワキ工業の分が佳作に入りました。おめでとうございます。

この大会に参加させてもらって大きな元気をもらって帰路に就きました。ありがとうございました。



今年二月の仮処分判決以降、職場に戻って本裁判を続ける中塚さん・藤原さん、困難だらけですが頑張っています。

気に入らない存在だからと解雇し、仮処分の裁判で負けると生活が大変だろうと温情で仮雇用はするが、本裁判で解雇の是非を問わせる。一労働者に対して会社の金を使って自分たちの言い分を通そうという、こんな事は絶対許されないという気持ちです。ここまで来られたのはJMIU労働組合と共に闘ってきたからであり、これからも正面から会社と向き合い、解雇撤回・職場復帰を勝ち取る為、闘いを続けます。引き続き、ご支援の程、宜しく願い申し上げます。

原告団

本年2月、福岡地裁小倉支部はイワキ工業の解雇事件仮処分判決で、解雇権濫用を認定し、解雇無効と断罪しました。JMIU福岡地本は直ちにイワキ工業(株)に対して団体交渉を申し入れ、その結果会社は『暫定的職場復帰』を認めると回答しました。しかしイワキ工業は「解雇は正当であるから裁判で争う」と居直る姿勢を続けているため、二人は会社で就労しながら、地位確認を求めて本訴をたたかうという不自然な状態にあります。

イワキ工業に対し解雇撤回申し入れと、裁判所に対して公正な判決を求める署名活動を行なっています。6月19日口頭弁論で既に517筆の署名を裁判所に届けました。その後全国支援をお願いしつつ集約に全力をあげています。本年早い時期に2000筆達成を目標にしています。皆様のご協力をお願いします。

2012年7月28日

イワキ工業解雇問題対策委員長・二子石 一